

県介護予防マニュアル改訂版修正内容について（新旧対照表）

【平成27年5月】

新（修正後）	旧（修正前）	備 考
<p>I 導入編</p> <p>第1章 介護予防総論</p> <p>3 介護予防に係る二次予防事業について</p> <p>(1) 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p> <p>要介護状態になるおそれの高い状態にあると認められる65歳以上の者に対し、介護予防事業を実施し、対象者の心身の機能や生活機能を高めるとともに、一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組を支援します。</p> <p>今回のマニュアルには従来の「運動器機能向上プログラム」「栄養改善プログラム」「口腔機能向上プログラム」「閉じこもり・認知機能低下・うつ予防・支援プログラム」に「複合プログラム」を追加しました。</p> <p><u>事業実施後は事後アセスメントを行い、専門職による継続支援が必要な対象者は二次予防事業の継続、状態が改善した対象者はその状態が維持されるよう、一次予防事業や地域で行われている健康づくりや介護予防活動へつなぐなど、対象者が主体的に介護予防に取り組めるよう支援することが必要です。</u></p> <p>介護予防に係る二次予防事業の流れは、次のとおりです。</p>	<p>I 導入編</p> <p>第1章 介護予防総論</p> <p>3 介護予防に係る二次予防事業について</p> <p>(1) 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p> <p>要介護状態になるおそれの高い状態にあると認められる65歳以上の者に対し、介護予防事業を実施し、対象者の心身の機能や生活機能を高めるとともに、一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組を支援します。</p> <p>今回のマニュアルには従来の「運動器機能向上プログラム」「栄養改善プログラム」「口腔機能向上プログラム」「閉じこもり・認知機能低下・うつ予防・支援プログラム」に「複合プログラム」を追加しました。</p> <p>介護予防に係る二次予防事業の流れは、下記のようになります。</p>	<p>総論</p> <p>P 8</p>

新（修正後）	旧（修正前）	備考
<p>図表1-5 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p> <p>図表1-5 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p> <p>地域で行われる健康づくり・介護予防活動</p>	<p>図表1-5 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p> <p>図表1-5 介護予防に係る二次予防事業の流れ</p>	<p>総論 P 9 図表の修正 「介護予防に係る二次予防事業の流れ」に二次予防事業終了後の流れを追記</p>

新（修正後）	旧（修正前）	備 考
<p>4 二次予防事業終了後について</p> <p><u>二次予防事業終了後、事業実施者は対象者の事後アセスメントを行い、専門職による継続支援が必要な対象者は二次予防事業の継続、また、状態が改善した対象者はその状態が維持されるよう、一次予防事業や地域で行われている健康づくりや介護予防活動へつなぐなど、対象者が主体的に介護予防活動に取り組めるよう支援することが必要です。</u></p> <p><u>二次予防事業終了後の対象者が、地域の通いの場で主体的に介護予防活動に取り組めるよう、市町村や事業実施者は、事業運営の中で対象者に役割を持ってもらうなど対象者の主体性を引き出す視点を持ち、事業終了後の地域での生活を見据えた支援が重要です。</u></p> <p>5 予防給付の介護予防ケアマネジメント (省略)</p> <p>6 医師の判断を求める基準 (省略)</p> <p>7 安全への配慮について (省略)</p> <p>8 介護予防事業等の事業評価 (省略)</p>	<p>4 予防給付の介護予防ケアマネジメント (省略)</p> <p>5 医師の判断を求める場合の基準 (省略)</p> <p>6 安全への配慮について (省略)</p> <p>7 介護予防事業等の事業評価 (省略)</p>	<p>総論 P 1 5 「二次予防事業終了後」について追記</p>

新（修正後）	旧（修正前）	備 考
<p>第2章 複合プログラム</p> <p>1 事業の趣旨</p> <p>(4) 個別サービス計画の作成（様式2） （省略）</p> <p>(5) プログラムの実施</p> <p>ア プログラムの趣旨</p> <p>本プログラムは、運動器の機能向上プログラムに栄養改善プログラム・口腔機能向上プログラムの内容を盛り込んで一体的に実施するものです。具体的なプログラムの内容は、各々の市町村において従来実施している内容等を組み合わせるなどして作成することとなりますが、プログラムを作成する際には、以下の点に留意し、対象者が楽しみ、継続して参加できるような内容となるよう工夫します。</p> <p><u>また、プログラムの実施者は、二次予防事業対象者が介護予防プログラムを終了した結果、得られた活動的な状態を維持するため、プログラム終了後の対象者の活動を視野に入れた支援を行うことが重要です。</u></p>	<p>第2章 複合プログラム</p> <p>1 事業の趣旨</p> <p>(4) 個別サービス計画の作成（様式2） （省略）</p> <p>(5) プログラムの実施</p> <p>ア プログラムの趣旨</p> <p>本プログラムは、運動器の機能向上プログラムに栄養改善プログラム・口腔機能向上プログラムの内容を盛り込んで一体的に実施するものです。具体的なプログラムの内容は、各々の市町村において従来実施している内容等を組み合わせるなどして作成することとなりますが、プログラムを作成する際には、以下の点に留意し、対象者が楽しみ、継続して参加できるような内容となるよう工夫します。</p>	<p>複合プログラム</p> <p>P 2 8</p>

新（修正後）	旧（修正前）	備 考								
<p data-bbox="472 225 618 256">(途中省略)</p> <p data-bbox="91 280 537 312">イ プログラムの実施期間・回数</p> <p data-bbox="120 336 999 424">到達目標を見据え、運動・栄養・口腔の各内容を複合的に取り入れたプログラムを実施します。</p> <p data-bbox="120 448 999 592">プログラム実施にあたっては、対象者が継続して介護予防を實踐できるよう、プログラム終了後の活動の場（受け皿）も視野に入れて、支援する必要があります。</p> <p data-bbox="120 616 999 703">プログラムの実施期間・回数、参加者数等の目安は以下のとおりです。</p> <p data-bbox="103 727 454 759">図表2-3 主なプログラムの内容</p> <table border="1" data-bbox="103 767 972 1155"> <tr> <td data-bbox="103 767 293 1066">プログラム 実施回数及び 期間</td> <td data-bbox="293 767 972 1066"> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 ・事業参加者が介護予防事業終了後も地域で介護予防活動を継続できるよう、プログラム実施期間中に事業終了後の活動に関する話し合いを行う回を設けるなど工夫する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="103 1066 293 1155">プログラム 参加者数</td> <td data-bbox="293 1066 972 1155"> <ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 </td> </tr> </table> <p data-bbox="91 1198 389 1230">ウ プログラムの内容</p> <p data-bbox="472 1254 618 1286">(以下省略)</p>	プログラム 実施回数及び 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 ・事業参加者が介護予防事業終了後も地域で介護予防活動を継続できるよう、プログラム実施期間中に事業終了後の活動に関する話し合いを行う回を設けるなど工夫する。 	プログラム 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 	<p data-bbox="1384 225 1529 256">(途中省略)</p> <p data-bbox="1008 280 1453 312">イ プログラムの実施期間・回数</p> <p data-bbox="1037 336 1919 424">到達目標を見据え、運動・栄養・口腔の各内容を複合的に取り入れたプログラムを実施します。</p> <p data-bbox="1037 448 1919 592">プログラム実施にあたっては、対象者が継続して介護予防を實踐できるよう、プログラム終了後の活動の場（受け皿）も視野に入れて、支援する必要があります。</p> <p data-bbox="1037 616 1919 703">プログラムの実施期間・回数、参加者数等の目安は以下のとおりです。</p> <p data-bbox="1012 727 1359 759">図表2-3 主なプログラムの内容</p> <table border="1" data-bbox="1012 767 1888 1038"> <tr> <td data-bbox="1012 767 1202 951">プログラム 実施回数及び 期間</td> <td data-bbox="1202 767 1888 951"> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1012 951 1202 1038">プログラム 参加者数</td> <td data-bbox="1202 951 1888 1038"> <ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 </td> </tr> </table> <p data-bbox="1008 1198 1305 1230">ウ プログラムの内容</p> <p data-bbox="1384 1254 1529 1286">(以下省略)</p>	プログラム 実施回数及び 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 	プログラム 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 	<p data-bbox="1921 225 2136 312">複合プログラム</p> <p data-bbox="1921 336 2018 368">P 3 3</p> <p data-bbox="1921 392 2136 480">図表2-3に 追記</p>
プログラム 実施回数及び 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 ・事業参加者が介護予防事業終了後も地域で介護予防活動を継続できるよう、プログラム実施期間中に事業終了後の活動に関する話し合いを行う回を設けるなど工夫する。 									
プログラム 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 									
プログラム 実施回数及び 期間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1-2回、3ヶ月間程度を目安とする。 ・1回あたり約2-3時間のプログラムとする。実施回数によっては、時間を短縮したり、栄養と口腔を1週毎に交互に実施するなど工夫する。 									
プログラム 参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・1教室10-30人程度を目安とする。調理実習などでは、各自の役割ができるように3-5人程度のグループが望ましい。 									

新 (修正後)	旧 (修正前)	備 考																																																												
<p>(8)「★基本チェックリスト等の前後比較」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括等職員</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。</td> </tr> </table> <p>⑨「ご自身の評価」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。</td> </tr> </table> <p>(10)「教室スタッフ記載」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括等職員又は事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。</td> </tr> </table> <p>⑪「★総合目標を達成するための取組はどうでしたか?」「★3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことは何ですか?」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)</td> </tr> </table> <p>(12)「★()さんへのメッセージ」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括職員等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>最終回等又は事業終了後</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。</td> </tr> </table>	記載者	包括等職員	記載時期	事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後	説明	複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。	記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。	記載者	包括等職員又は事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。	記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)	記載者	包括職員等	記載時期	最終回等又は事業終了後	説明	複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。	<p>(8)「★基本チェックリスト等の前後比較」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括等職員</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。</td> </tr> </table> <p>⑨「ご自身の評価」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。</td> </tr> </table> <p>(10)「教室スタッフ記載」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括等職員又は事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。</td> </tr> </table> <p>⑪「★総合目標を達成するための取組はどうでしたか?」「★3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことは何ですか?」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>教室最終回等</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)</td> </tr> </table> <p>(12)「★()さんへのメッセージ」</p> <table border="1"> <tr> <td>記載者</td> <td>包括職員等</td> </tr> <tr> <td>記載時期</td> <td>最終回等又は事業終了後</td> </tr> <tr> <td>説明</td> <td>複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。</td> </tr> </table>	記載者	包括等職員	記載時期	事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後	説明	複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。	記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。	記載者	包括等職員又は事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。	記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等	記載時期	教室最終回等	説明	対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)	記載者	包括職員等	記載時期	最終回等又は事業終了後	説明	複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。	<p>複合プログラム P 4 4 「私の元気計画」を記載する際の参考に追記</p>
記載者	包括等職員																																																													
記載時期	事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後																																																													
説明	複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。																																																													
記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。																																																													
記載者	包括等職員又は事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。																																																													
記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)																																																													
記載者	包括職員等																																																													
記載時期	最終回等又は事業終了後																																																													
説明	複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。																																																													
記載者	包括等職員																																																													
記載時期	事業前:事業前(二次予防事業対象者として選定された時でも可) 事業後:教室終了間際又は、教室終了後																																																													
説明	複合プログラムの実施前・後における基本チェックリスト該当項目数の比較をするために、実施前後それぞれの、基本チェックリスト記入日及び該当項目数を記載する。 また、前後の主観的健康感も記録し、事業効果の評価の参考とする。																																																													
記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	複合プログラムを1クール実施後に記載する。対象者が各領域毎に立てた自分の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、主観的な評価をする。 対象者自身で記載できる場合は、対象者が記載し、対象者の記載が困難な場合は、包括職員等が、対象者の気づきを促しながら記載する。記載日も忘れずに記録すること。																																																													
記載者	包括等職員又は事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	複合プログラムを3ヶ月実施した後に記載する。各領域毎に立てた対象者の目標と、事業終了時の現在の状況を比較して、客観的な評価を複合プログラムの事業実施者が記載する。複合プログラムの教室の中で実施した体力測定等の測定結果等も踏まえ、客観的に評価し、記載する。記載日も記入する。 ※がんばん項目以外の項目も記載する。																																																													
記載者	対象者又は包括等職員・事業実施スタッフ等																																																													
記載時期	教室最終回等																																																													
説明	対象者が、総合目標に対する評価を記載する。各領域に関係なく、3ヶ月を振り返って日常生活で変化したことを対象者の主観を記載(可能であれば、本人が記載する。)																																																													
記載者	包括職員等																																																													
記載時期	最終回等又は事業終了後																																																													
説明	複合プログラムを1クール実施し、現在の状況のアセスメントと、今後のフォローの方法等について記載する。より専門的な支援を受けた方が効果が上がる事が期待される場合や、対象者が単独プログラムへの参加を望む場合等は、単独プログラムによるフォローにつなぐ。状態が改善した場合等でも、一次予防事業や地域で行われている活動につなぎ、対象者が自主的に取組を継続していくための工夫をする必要がある。																																																													
<p>※新しい介護予防・日常生活総合支援事業における多様なサービスにおいても「私の元気計画」は参加者のセルフケア能力や自身の目指す姿の発信力を高めるためのツールとして有効活用していくことが望ましい。</p>																																																														

新 (修正後)

旧 (修正前)

備考

様式 2-①

複合プログラム
様式 2-①

複合プログラム 運動個別サービス計画兼評価報告書

(1)氏名 (才) 生年月日 M T S 年 月 日

担当地域包括支援センター

● 事前アセスメント兼評価表

項目	開始時 (H. 年 月 日)				終了時 (H. 年 月 日)				改善・維持・悪化				
(2) 疼痛	痛みの程度	なし	軽度	中等度	重度	なし	軽度	中等度	重度	改・維・悪			
	日常生活での支障	支障なし	時々支障あり	常に支障あり		支障なし	時々支障あり	常に支障あり		改・維・悪			
(3) 麻痺	痛みの程度	なし	軽度	中等度	重度	なし	軽度	中等度	重度	改・維・悪			
	日常生活での支障	支障なし	時々支障を感じる	常に支障を感じる		支障なし	時々支障を感じる	常に支障を感じる		改・維・悪			
(4) 体力測定結果等	①身長	cm				【BMI】				改・維・悪			
	①体重	kg				【BMI】				改・維・悪			
②開眼片足立ち (右・左)	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
	③握力	左	kg	右	kg	記録値	kg	左	kg	右	kg	記録値	kg
④タイムアップ・アンド・ゴー	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
⑤5m歩行	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
(5) 運動時間の変化	週 回 (1日: 分)				週 回 (1日: 分)				改・維・悪				
(6) 主観的健康感	1・2・3・4・5 ※1:よい, 2:まあよい, 3:ふつう, 4:あまりよくない, 5:よくない				1・2・3・4・5				改・維・悪				
自由記載													

● プラン等

(7) 目標	
(8) 支援に際して注意すること	
(9) プログラム	[1ヶ月目]記載日: [2ヶ月目]記載日: [3ヶ月目]記載日:
(10) 実施結果	
(11) モニタリング	
(12) 参加回数	回 / 12回
(13) 総合評価・コメント	改善・維持・悪化

(14) 作成日 H 年 月 日

受託事業者 事業所 作成担当者氏名

複合プログラム
様式 2-①

複合プログラム 運動個別サービス計画兼評価報告書

(1)氏名 (才) 生年月日 M T S 年 月 日

担当地域包括支援センター

● 事前アセスメント兼評価表

項目	開始時 (H. 年 月 日)				終了時 (H. 年 月 日)				改善・維持・悪化				
(2) 疼痛	痛みの程度	なし	軽度	中等度	重度	なし	軽度	中等度	重度	改・維・悪			
	日常生活での支障	支障なし	時々支障あり	常に支障あり		支障なし	時々支障あり	常に支障あり		改・維・悪			
(2) 麻痺	痛みの程度	なし	軽度	中等度	重度	なし	軽度	中等度	重度	改・維・悪			
	日常生活での支障	支障なし	時々支障を感じる	常に支障を感じる		支障なし	時々支障を感じる	常に支障を感じる		改・維・悪			
①身長	cm				【BMI】				改・維・悪				
	kg				kg				改・維・悪				
②開眼片足立ち (右・左)	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
	③握力	左	kg	右	kg	記録値	kg	左	kg	右	kg	記録値	kg
④タイムアップ・アンド・ゴー	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
⑤5m歩行	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	1回目	秒	2回目	秒	記録値	秒	改・維・悪
(4) 運動時間の変化	週 回 (1日: 分)				週 回 (1日: 分)				改・維・悪				
(5) 主観的健康感	1・2・3・4・5 ※1:よい, 2:まあよい, 3:ふつう, 4:あまりよくない, 5:よくない				1・2・3・4・5				改・維・悪				

● プラン等

(6) 目標	
(7) 支援に際して注意すること	
(8) プログラム	1ヶ月目 2ヶ月目 3ヶ月目
(9) 実施結果	
(10) モニタリング	
(11) 参加回数	回 / 12回
(12) 総合評価・コメント	改善・維持・悪化

(13) 作成日 H 年 月 日

受託事業者 事業所 作成担当者氏名

複合プログラム
P45, 49,
53
各「個別サービス計画兼評価報告書」に自由記載欄及び記載日の欄を追記

複合プログラム 口腔個別サービス計画兼評価報告書

(1) 氏名 (才) 生年月日 M・T・S 年 月 日

担当地域包括支援センター

●(2) アセスメント表評価表

観察項目		評価項目			事前	事後	改善・維持・悪化	
1	BMI	身長	前 cm 後 cm	体重	前 kg 後 kg		改・維・悪	
2	基本チェックリストの3項目課題確認(該当する場合は、✓を)	No. 13 半年前に比べて、固いものが食べにくくなりましたか					改・維・悪	
		No. 14 お茶や汁物でむせることがありますか					改・維・悪	
		No. 15 口の湿きがきになりますか					改・維・悪	
3	歯や義歯の汚れ	1 ある	2 中程度	3 ない			改・維・悪	
4	舌の汚れ	1 ある	2 中程度	3 ない			改・維・悪	
5	フクフクがい(空フクフクでも可)	1 できない	2 やや不十分	3 できる			改・維・悪	
6	その他特記事項							
本人の状態に応じて実施	①	反復唾液嚥下テスト	30秒間から嚥下が何回できるかを観察(正常:3回以上)			回	回	改・維・悪
	②	オーラルディアドコギネシス	パ	回	回	改・維・悪		
			タ	回	回	改・維・悪		
		カ	回	回	改・維・悪			

自由記載

●プラン等

(3) 目標	
(4) 支援に際し注意する事	
(5) プログラム	【1ヶ月目】記載日: 【2ヶ月目】記載日: 【3ヶ月目】記載日:
(6) 実施結果	
(7) モニタリング	
(8) 参加回数	回 / 回
(9) コメント・総合評価	改善・維持・悪化

作成日 H 年 月 日

受託事業者

作成担当者氏名

複合プログラム 口腔個別サービス計画兼評価報告書

(才) 生年月日 M・T・S 年 月 日

担当地域包括支援センター

●(2)アセスメント表評価表

観察項目		評価項目			事前	事後	改善・維持・悪化	
1	BMI	身長	前 cm 後 cm	体重	前 kg 後 kg		改・維・悪	
2	基本チェックリストの3項目課題確認(該当する場合は、✓を)	No. 13 半年前に比べて、固いものが食べにくくなりましたか					改・維・悪	
		No. 14 お茶や汁物でむせることがありますか					改・維・悪	
		No. 15 口の湿きがきになりますか					改・維・悪	
3	歯や義歯の汚れ	1 ある	2 中程度	3 ない			改・維・悪	
4	舌の汚れ	1 ある	2 中程度	3 ない			改・維・悪	
5	フクフクがい(空フクフクでも可)	1 できない	2 やや不十分	3 できる			改・維・悪	
6	その他特記事項							
本人の状態に応じて実施	①	反復唾液嚥下テスト	30秒間から嚥下が何回できるかを観察(正常:3回以上)			回	回	改・維・悪
	②	オーラルディアドコギネシス	パ	回	回	改・維・悪		
			タ	回	回	改・維・悪		
		カ	回	回	改・維・悪			

●プラン等

目標			
支援に際して、注意する事			
プログラム	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目
実施結果			
モニタリング			
参加回数	回 / 回		
コメント・総合評価	改善・維持・悪化		

作成日 H 年 月 日

受託事業者

作成担当者氏名

新（修正後）	旧（修正前）	備 考
<p>II 実践編</p> <p>第3章 運動器機能向上</p> <p>5 運動器の機能向上プログラム</p> <p>(2) 事前アセスメント</p> <p>(途中省略)</p> <p>ウ 体力測定方法と参考値</p> <p>運動機能自体の評価方法は以下に示す通りです。検査者が常に同一人物でないことや教示（声かけ）により記録が変化することも考えられるため、方法ならびに教示まで設定しました。検査者はこの教示を原則として行ってください。</p> <p>また、この運動機能測定項目は対象者の事業前・後の変化をみるためのものですが、「一次予防事業」「二次予防事業」「予防給付」の中で、「現在、自分はどの程度の位置に存在するか」ということを把握することができるように、今回は一次予防事業・二次予防事業・予防給付対象者に対して平成23年4月から12月にかけて各市町村並びに関係団体に協力していただき各条件該当者に実施した体力測定の結果をもとに6段階評価が可能となるようにアウトカム指標を設定しています。</p> <p><u>ならびに平成25年4月から10月にかけて、一次予防・二次予防ならびに予防給付事業実施団体に対して生活機能チェックも併せて実施しました。これはあくまでも一つの目安として利用して頂きたいと考えます。</u></p> <p>(以下省略)</p>	<p>II 実践編</p> <p>第3章 運動器機能向上</p> <p>5 運動器の機能向上プログラム</p> <p>(2) 事前アセスメント</p> <p>(途中省略)</p> <p>ウ 体力測定方法と参考値</p> <p>運動機能自体の評価方法は以下に示す通りです。検査者が常に同一人物でないことや教示（声かけ）により記録が変化することも考えられるため、方法ならびに教示まで設定しました。検査者はこの教示を原則として行ってください。</p> <p>また、この運動機能測定項目は対象者の事業前・後の変化をみるためのものですが、「一次予防事業」「二次予防事業」「予防給付」の中で、「現在、自分はどの程度の位置に存在するか」ということを把握することができるように、今回は一次予防事業・二次予防事業・予防給付対象者に対して平成23年4月から12月にかけて各市町村並びに関係団体に協力していただき各条件該当者に実施した体力測定の結果をもとに6段階評価が可能となるようにアウトカム指標を設定しています。</p> <p>(以下省略)</p>	<p>運動器機能向上プログラム</p> <p>P 8</p> <p>追記</p>

新（修正後）									旧（修正前）									備 考
(途中省略)									(途中省略)									運動器機能向上プログラム P 1 3 図表 3 - 1 0 5 m 歩行の得点表差し替え
図表 3 - 1 0 5 m 歩行の得点表（平成 2 3 年度調査より）									図表 3 - 1 0 5 m 歩行の得点表（平成 2 3 年度調査より）									
一次予防			二次予防			予防給付			一次予防			二次予防			予防給付			
	男性	女性		男性	女性		男性	女性	点	男性	女性	点	男性	女性	点	男性	女性	
0	4.5~	4.5~	0	8.3~	6.5~	0	15.1~	14.6~	0	4.5~	4.5~	0	8.3~	6.5~	0	15.1~	14.6~	
1	3.9~4.4	3.9~4.4	1	6.9~8.2	5.5~6.4	1	12.5~15.0	12.5~14.5	1	3.9~4.4	3.9~4.4	1	6.9~8.2	5.5~6.4	1	12.5~15.0	12.1~14.5	
2	3.3~3.8	3.3~3.8	2	5.5~6.8	4.5~5.4	2	9.5~12.4	9.6~12.4	2	3.3~3.8	3.3~3.8	2	5.5~6.8	4.5~5.4	2	9.5~12.4	9.6~12.4	
3	2.7~3.2	2.7~3.2	3	4.1~5.4	3.5~4.4	3	6.5~9.4	7.5~9.5	3	2.7~3.2	2.7~3.2	3	4.1~5.4	3.5~4.4	3	6.5~9.4	7.5~9.5	
4	2.1~2.6	2.1~2.6	4	2.8~4.0	2.5~3.4	4	3.5~6.4	5.0~7.4	4	2.1~2.6	2.1~2.6	4	2.8~4.0	2.5~3.4	4	3.5~6.4	5.0~7.4	
5	~2	~2	5	~2.7	~2.4	5	~3.4	~4.9	5	~2	~2	5	~2.8	~2.4	5	~3.4	~4.9	
(才) Time up & go test(TUG) (以下省略)									(才) Time up & go test(TUG) (以下省略)									

